



5月29日(火)、旭小学校で、タッチプール(本研究所で購入)の試行が行われました。プールに入れる海水は、保護者が軽トラックで運んでくれました。その量、なんと約500リットル。保護者の協力なしには、なかなかできないことです。



プールの中には、カワハギ、トチザメ、シマイサキ、クサフグなどが入れられました。これも、保護者が用意してくれました。旭小学校では、地域の方、保護者の方が協力して、海洋教育を盛り上げてくれています。

20分休みと昼休みに、子どもたちが、タッチプールに群がりました。サメやカワハギ、クサフグなどは、子どもたちでも触ることができますが、イサキは素早く、ほとんどの子はタッチできません。初めて魚に触ることができた子どももいたようです。子どもたちは、魚の感触なども、「ヌルっとしている」等表現していました。



小さい子どもたちは、魚に触ることだけに熱中していますが、上級生は、「優しく触って」、「いじめないで」「タッチだけだよ」などと、下級生にルールを説明するなどの声をかけていました。



同じく、本研究所で配付したエアポンプも、タッチプールで、威力を発揮していました。タッチプールは、どの学校にも貸し出し可能です。

他の水槽の中には、昨年、子どもたちのアイドルになったアカグツ(深海魚)が、新しく入っていました。



5月24日(木)に、みうら学研究会兼海洋教育研修会が行われ、2年目を迎えた先生方を対象に、国立教育政策研究所の五島政一先生の講演がありました。

先生は、フィールドワークの重要性に触れ、地層の観察を例に挙げ、「フィールドワークには発見がある」「子どもをほめる機会が増える」「探求的な学習ができる」等の利点をあげました。実際に、フィールドワー

クで、子どもたちとサメの歯の化石を発見した時の話も興味深く聞きました。特に、海や地層をはじめとする「三浦の財産」を大切にしてほしいというお話もありました。

最後に、これから研究をしていくにあたって、科学的な視点を育て、地域の自然を愛する子どもを育てるために、アースシステムを利用して、海洋教育等に取り組んでほしい、と結ばれました。



お知らせ

5月24日(木)に、本研究所の第3回定時総会が開催され、代表理事が杉山実前副市長から星野拓吉現副市長に交代いたしました。

(文責 事務局長 渋谷)